

牧師室から (2022.4.3)

去年は還暦を迎えたことをしみじみと思っていたら、あっという間に新年度になってしまった。主観的に感じる時間の長さは年齢に反比例するともいわれる。すなわち年齢の逆数に比例することである。例えば1年に長さが5歳なら5分の1、20歳なら20分の1、80歳なら80分の1というように、80歳なら20歳の4倍速く感じる、というわけだが、まさに光陰矢の如しである。

近年、今年こそ何か新しいことを始めようと思っているが、今までのおさらいや現状維持をするのが精一杯であるのが切ない。

私どもが海老名に赴任して3年目に入るが、コロナ禍ということもあってなかなか諸活動ができていない。人には慣れというものがあり、この状態に落ち着きそうになる自分があるのを感じて不安になることがある。そこで、今年度こそ何か新しいことをやりだそうと思っている。皆様と共に迎えた新年度に、今年度こそ、主に喜ばれる何かを始めて、前進したいと思っている。主を仰ぎ見ながら、共に進む新年度でありたい。

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」
(Ⅱコリントの信徒への手紙4章16、17節)

(鈴木淳一牧師)